

**凡例**

・：意見等

⇒：回答等

# 第5回 丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会 議事概要

<b>事項</b>	第5回 丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会	<b>出席者</b>	協議会委員：10名 (国県関係部局・事務局等除く)
<b>日時</b>	平成30年3月9日(金)14:00~16:00	<b>場所</b>	丹波県民局 柏原職員福利センター1階 会議室
<b>内容</b>	1 開会 2 委員及び出席者紹介 3 報告事項 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱の改正について 4 情報提供 ①神戸地方気象台からの情報提供 ②近畿地方整備局からの情報提供 5 議事 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の見直しについて ①丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の見直しについて ②これまでの取組の評価・検証 ③丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画(変更案) 6 その他(連絡事項) 7 閉会		
<b>資料</b>	<b>【配付資料】</b> 議事次第、出席者名簿、配席図 資料-1-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱 資料-1-2 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会公開要領 資料-2 神戸地方気象台からの情報提供 資料-3 近畿地方整備局からの情報提供 資料-4-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の見直しについて 資料-4-2 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画のこれまでの取組の評価・検証について 資料-4-3 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画フォローアップシート 資料-4-4 丹波東部地域の取組状況 資料-5 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画(変更案)		

**1 開会**

丹波土木事務所 所長より開会のあいさつを行った。

**2 委員及び出席者紹介**

事務局より委員及び出席者の紹介を行った。

### 3 報告事項

#### 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱の改正について

事務局より、「丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱」の変更について説明を行った。

### 4 情報提供

#### ①神戸地方気象台からの情報提供

神戸地方気象台より、防災気象情報の改善について説明を行った。

#### ②近畿地方整備局からの情報提供

近畿地方整備局より、市町村地域防災計画に定められた要配慮者利用施設数及び計画作成状況について説明を行った。

### 5 議事

#### 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の見直しについて

##### ①丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の見直しについて

事務局より、推進計画の見直し趣旨や状況について説明を行った。

##### ②これまでの取組の評価・検証

事務局より、これまでの取組の評価・検証及び今年度の取組状況について説明を行った。

##### ③丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画(変更案)について

事務局より、推進計画の変更点について説明を行った。

### <意見交換>

主な意見等

#### (1) 河川・下水道対策について

・竹田川本川について、十数年前に京都府との境から順次河床の切り下げをしていたが、現状はまた同じほどの土砂が堆積している。また、統合井堰について、すでに整備済みの統合井堰は真ん中だけが削っており、両サイドはコンクリートの井堰が残っている。以前説明を受けた際に低水護岸だと聞いているが、その関係で残しているのか。(関係団体委員)

⇒竹田川本川は川幅が広く、複断面という台形になっている。一番農地に近い大きな堤防を守るためには低水護岸が必要であり設けているが、整備目標流量としては、今の低水護岸がある断面で流せるようになっている。

河床の切り下げは、順次下流から進めているが、井堰を固定堰から可動堰に変えることで、洪水時に水位を低下させる効果があることから、こういった大きな工作物の改良を先行して行っているため、河床掘削が後年度の工事になっている。(県関係部局)

## (2) 流域対策について

・過疎化等により山の手入れをする人が減り、山に降った雨がすぐに川に流れ出ていたが、計画策定後のこの5年間を見ても、間伐等による山の整備が進み、山の保水力が上がったことにより、川の水位の上昇がゆるやかになったように感じる。

近年、行政を通じていろいろな人たちと一緒に蛍や魚類の調査もできている。そういった取組があると、地元の関心度も高まる。山や川が守られていくような取組を今後ともお願いしたい。

大勢の人が住んでいる下流のことを考えるなら、上流の山や川への視点をぜひ今後とももっていただきたい。(県民委員)

⇒ご意見のとおり、山の整備効果は非常に大きいと認識している。同じ流域対策でも校庭貯留や田んぼダムの効果に比べると非常に大きな数値をもっている。兵庫県でこういった取組を行っていることを竹田川下流の京都府へも伝え、お互い情報共有しながら進めていきたい。(事務局)

・山の整備はどこをどう整備したのかなど、見えづらい。進捗状況など地元の自治会へでも伝えてもらえれば。(県民委員)

・目標まであと何%や何年かかるなど、住民に分かりやすいように見える化に工夫してもらいたい。(会長)

・10～15年程前に間伐後、簡易土留めとして山の中に置いてある木が平成26年8月の豪雨で流れ出てしまった。植林した木も根が深くはらず、根ごと流れ出て橋などにひっかかっていた。治山と治水のセットで進めていただきたい。

また、田んぼダムの取組が私の住む地域の中ではまだ浸透していないように感じる。(県民委員)

・所有者のわからない山が全国的に非常に多いと見聞きしたが、この地域はどうか。(会長)

⇒私の住む地域では、豪雨災害後の平成27～28年に山林の地籍調査を行っているため、所有者はわかっている。(県民委員)

・丹波地域は山が占める割合が多いため、災害に強い森づくりを進めるべきだと考える。災害で壊れたところを直すではなく、事前に事業を行うべき。丹波市は人工林が多く、スギ・ヒノキばかりである。広葉樹林に変え、育てていくような山づくりもあわせてすることが災害に強い森づくりだと思う。(関係団体委員)

### (3) 減災対策について

・私の住む地域では随分前に防災マップを作成したが、これまでに3回みんなで見直しを行っている。10年前に比べると雨の降る量が変わってきており、雨により山がくずれたり、まさかのことが起こる。防災マップは一度作ったらいいいということではなく、見直すことも大切だと思う。防災の講演会も年に一度はいろいろなところで聞いているが、その都度新しい情報が入ってきて良い。(県民委員)

### (4) その他

・都合により欠席された委員から「黒井川の改修を引き続き推進してほしい、大雨の際には自治会役員が集まって高齢の独居者への声かけなどを行っているが、テレビ等から配信される気象情報を頼りにしているため、このような情報配信はありがたい。」などの意見を伺ったことを事務局より報告した。

・推進計画の内容について、たくさん情報があり会議の中だけでは理解しきれない。事前に資料を送付するなどしてもらえれば意見も出しやすいのではないか。(関係団体委員)

・タイムライン、ホットライン、水位周知河川、想定最大規模降雨など、一般的には馴染のない単語がたくさん出てきた。用語の説明を記載すればより理解できるのではないか。(会長)  
⇒推進計画に説明を記載するなど対応する。(事務局)

・意見をきくなら、それぞれ小学校単位くらいで委員を選出してはどうか。(関係団体委員)  
⇒竹田川流域の他に、加古川流域・武庫川流域なども同様に協議会等を開催している。それでも、集まって発言いただく委員が限定されるというのはご指摘のとおりである。委員には自治会や地域の代表という立場で意見を出していただければと考えている。(事務局)  
⇒あまり委員が多くなると、それぞれの地区の細かな要望を出すようになるのではと思う。流域全体のことを広い視点で考えるべきであり、代表委員でいいと思う。(関係団体委員)

閉会

(以 上)